

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-62

学校名・団体名	江南市立草井小学校
HPアドレス	http://www.city-konan.ed.jp/kusai-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「楽しく学ぶ子・学ぼうとする子」の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は昨年度から授業改善と家庭学習の充実を目的に研究をしてきた。そこで、授業改善として本校の授業のスタイルである「草井小スタンダード」を定着させ、どの子にも力を付けるために、授業の「めあて」から「ふりかえり」を構造化し、特に「ふりかえり」の中の「わたしの学び」という授業の振り返りの時間に焦点をあて、児童が主体的に自己の振り返りをできるようにしてきた。あわせて、家庭学習と授業の連携を深めた授業改善と家庭学習の充実により、更なる児童の学力の充実をめざしてきた。</p>	

1 活動内容

(1) 対象者 全校児童 (414名)

(2) 教科 全教科

(3) 活動時期及び内容

①授業と家庭学習との連携を深める活動

- ・授業と家庭学習のつながりのある効果的なカリキュラムを、学年部会を柱に開発研究してきた。(1年間)
- ・中学校テスト週間と連携した家庭学習がんばり週間を実施した。(9月末~10月はじめ、2月中旬)
- ・草井小版「家庭学習の手引き」を年度初めに保護者に配付した。家庭学習についての保護者との連携に努めるとともに、市内他小中学校にデータ提供をした。(4月)
- ・家庭学習に関する保護者・児童アンケートを実施した。(10月上旬、2月下旬)

②継続的な校内授業研究会

- ・奈良学園大学人間教育学部 伊崎一夫教授を講師として、学期に1、2回「授業づくりと家庭学習の充実」に関する授業研究会を開催した。また、夏季休業時には講演をお願いし、研究の指導も受けた。(6月、8月、10月、12月、2月)
- ・「草井小スタンダード」に基づく授業実践を進め、学期に1回の「授業スキルアップ週間」を行い、全校職員の研究に対する共通理解を深めた。(5月下旬~6月はじめ、9月下旬~10月中旬、1月中旬~1月下旬)

③ICT活用力を伸ばすICT機器活用講習会の開催

- ・デジタルハイビジョンカメラ・ぼうけんくん等を効果的に活用できるためのICT機器活用講習会を行い、少経験者への支援を行った。(5月)

④地域へ広げる研究報告会(中間発表会)

- ・平成28・29年度の2年間にわたる丹波地方教育事務協議会研究委嘱による研究中間報告会を平成29年2月7日に開催した。その際、江南市を含む3市2町の小中学校とともに、お世話になっている本校校区の地域代表の方にも案内を出して、研究の成果を報告した。(2月)
- ・校下住民へ回覧板による「研究だより」の紹介を学校通信と共に実施した。(1年間)

2 成果及び子どもたちへの効果

(1) 教師の指導力の充実

授業の「めあて」から「ふりかえり」を構造化をした草井小スタンダード(基本的な授業スタイル)で授業改善をめざしてきた。教師が「めあて」と「ふりかえり」を重視した指導過程をとったことにより、何を学んでいるかが児童にも明確になり、「分かる・できる」を実感できる授業づくりができたと考えられる。児童からは、「今日のまとめはこうなるかな」「昨日と似ているな」という授業中のつぶやきも聞かれ、授業に積極的に参加する児童が増えた。また、児童の授業理解が進んだため、「平日に宿題以外の学習に取り組む児童」や「土日にも学習する児童」が増えてきた。特に土日に学習に取り組む児童が増えたことは、成果としてあげられる。

さらに家庭学習を取り入れた単元構成にすることで、児童はより授業内容が分かり、家庭学習で取り組んだことが授業に生きることを実感することができた。その結果、繰り返し学習したり、疑問に思ったことを自主的に調べたりする児童が増えてきた。

(2) 子どもの学力の向上

授業の「めあて」や「わたしの学び」などで書く場面が増え、意見交流、ふりかえりなどの「草井小スタンダード」による授業の取り組みや、授業と結びついた家庭学習の充実を通して、児童の書く力が伸び、今後の学力テストでの向上が期待される。

学びの基礎となる学習態度を確立するために、各学級で毎月「学習のめあて」を決め、学習に向かう姿勢、心構えを意識させた。そのため自分たちが特に取り組むべきことがはっきりし、めあてを達成しようと努力する姿がみられた。また、「わたしの学び」として、毎時間本時の学習を個人で振り返ることによって、自分の考えや思い、学びを表現することに抵抗がなくなってきた。最初の頃は内容が薄かった「わたしの学び」が充実してきている。目に見えた学力の向上はまだないが、この取組が継続されることでねらいが達成できるのではないかと考える。

(3) 家庭との連携強化

家庭と連携するために「家庭学習の手引き」や研究だより、学年通信などで保護者に啓発をしたり、授業と家庭学習のつながりを強化し、保護者を巻き込んだ取組にしたりすることで少しずつではあるが学力向上につながってきた。

2年生の学級では、国語科の説明文の学習において家庭との連携を図り、授業と家庭学習のつながりを強化したことによって、1学期に比べ、単元テストの得点率が7割未満の児童が減り、9割以上の児童が増えた。

4年生の理科の学習では、学校での学習を基に家庭でクイズを出す家庭学習に取り組んだ。その結果、学習したことがより記憶に残り、テストの知識・理解の観点で得点率が上がった。

5年生の社会科「あたたかい土地のくらし」では、学習したことをまとめるパンフレット作りを家庭学習で行った。学習したことを自分なりに毎時間まとめたため、それまでに行った単元テストよりも平均点が上がった。

これらの取組を行うことで児童、保護者の意識が変わりつつある。特に保護者はノートにコメントを書いたり、励ましの言葉をかけたりして、学習面での児童との関わりが増えてきている。

(4) 学校の組織力の拡充

北部中学校区他2校（江南市立北部中学校・江南市立古知野北小学校）職員や保育園・幼稚園職員による授業参観での交流を進め、連携を強化してきた。特に北部中学校区3校で授業や生徒指導などのいろいろな場面で共通した取組を進めたため、それぞれの組織力が高まってきた。

(5) 他校園への発信

2月7日の研究報告会（中間発表会）を通して、江南市内ばかりでなく犬山市・岩倉市・丹羽郡扶桑町・大口町を含めた3市2町の小中学校の校長ならびに教員に子どもたちの授業への取組の様子を見てもらった。また、研究紀要（中間発表要項）を配付することにより、具体的な取組概要を広げることができた。

3 次年度へ向けて

中間報告会を契機にして、以下のような3点の課題が分かってきた。

- ・子どもたちが主体的に自分の思いや考えを発表する力が不十分である。
- ・家庭での「家庭学習の手引き」の活用が十分されていない。
- ・家庭学習の取組について学校から保護者へのフィードバックが不十分である。

平成29年度、研究の2年目に向けて以上の課題を修正しながら、平成29年10月の研究発表会に向けて実践を続け、子どもたちの成長を更に支援していきたいと考えている。